

西月あ謡

下

特別
~13
4376
3

100mm 90 80 70 60 50 40 30 20 10 2

貴
N3
4396
3

川 深
瀬物樂燒卸
仲町通蛤町
満壽屋八五郎



雨の夜巻之四

蛇性ノ姫

この時代をえん紀の園三物う崎よ。大宅の竹助とひし人立なり。人海れ幸ありて。海島どもひまき市ひ。婚の後お抜きわどもしてすくなく。家豊よ幸。名男み二人。女み二人とも。太帝ハ贋朴もとよく生産と治ひ。二帝れ女み、太和れ人の娘よ。是を彼ふゆゆ。三帝の豊雄うさりのゆ。生長優一く常よ都風よ。多好て。と活ひきり。父是と安はらひ。家財とわもくろひ。而人のおとちよん。すりとて他れ家と嗣ぐ。人もくうてきみすらん。只もとゆす事。既て博士にむされ

が。法師ももたらん。今れ極ウキナリの太帝タヒ。羈ハシマわふく。め
せんと。強カタて控コトコトひせぎ。アラモ。けを。雄カミ新ハタツ。文の神奴ミナガ。傍ハタケ
弓タチ磨マロと。師シテ。通スルひる。九月クモク下旬シキ。アラモ。アラモ。アラモ。
和ハタハタ。海シマ。暴ハタハタ。東南ヒムカの雲クモと。すカタ。小雨コトカム。そほ
仰アガマ。涙カタマリと。傘ヤマレ。アリ。停スル。丸島マルシマの秋秀カエハシ。食エサ。足アシ。邊ハタケ
老シテ。ひゆ。こ。大人オトコの弟子アシテ。思アガマ。立スル。わ。北ヒムカ
の。ゆ。そ。つ。忍シテ。す。是アガマ。す。人ヒトと。圓カク。府フの
酒サケ。お。う。御ミサカ。清シラカバ。や。ま。わ。に。宴イニ。時ヒメ。歸カム。月ツキ。ど。い。の。う。歎カム。よ
き。お。わ。た。し。く。セ。そ。と。と。体アサ。ひ。ね。外スル。方カタ。い。の。う。歎カム。よ
歎カム。よ。び。躬アサ。も。う。一。歎カム。を。史ヒ。と。つ。ひ。づ。入スル。金。多。私アサ。鄰カミ。し。と
尽スル。奉スル。奉スル。身アサ。に。ま。う。れ。女アガマ。の。貌アガマ。容アガマ。發スル。ゆ。と。體アサ。い。や。

よをひすりぬよれ衣きて。ア鑿乃十四又をうみしを
きよた。色一。おわらと。あくこに瀧てわび。きよ。ぎ。雄
と。かと。瀧と。お赤やくねう。げき。形比貴やう。きよ。雄
不思。よん動。きと。且々。ハ。けき。よ。か。す。御。き人の往え
と。今ま。で。穿。ぬ。ゆ。ハ。あ。じ。ば。け。ハ。郊。人の。こ。と。よ。詠。せ
次。よ。海。愛。ら。く。あ。よ。お。が。ん。き。り。き。と。男。う。者。も。つ。と
き。も。と。ち。く。き。み。す。か。と。も。ひ。つ。す。と。う。身。還。ま。と
あ。れ。入。セ。ゆ。雨。も。や。て。そ。休。り。と。よ。せ。あ。と。宿。を。在。ゆ
と。そ。ほ。ど。き。き。の。ち。れ。ば。づ。ひ。御。と。ゆ。に。居。る。近。近。
ゆ。ひ。て。じ。せ。の。人。も。や。も。を。ぬ。と。う。る。き。よ。い。と
を。よ。立。と。立。と。せ。よ。し。ひ。貴。き。る。わ。り。付。方。と。ふ
尽。き。る。が。三。山。道。や。一。ゆ。く。人。事。の。温。家。よ。出。立。あ。と。

雨月

卷之二

望すが高き荒磯とむれ凡てあら
いわたり人外

少とある。ゆとすよ。あらまき。あらまき。あらまき。
あられ。親の同からぬ男う。ひゆく雨休也。すもと
地図の店ありとへ。ゆふはれ。遠せんも却てそれ
は傘も出史とす。せふと教きやんが空ゆ。主ぬを
よれてまりえ。都れまのまわしへ。近き雨年來
ほりえ。うえるる日とて那智よ清ゆ。と暴す雨此
あらまき。とめよもあらず。さういふも立すりて
あらまき。ねば。小休よ出候さんとよど。強よけ傘も
いきや。行候すも求ま。雨史よ休う。もまき候也



翁翁ひつた。めでて。繕來の方よりゆきあるを雄乃。
よりえよおき。始みの家へづくぞ。傘立ともとて翁あ
とづく。繕きゑて。ともも来ませり。あまた物もゆとて。
あよきてゆく。贋ほどもゆく。あそとゆれ。あはれゆ
よ。門もく造りキ。家も大きう。翁も傍へ窓へれゆじ
まで。夏の裏に乃とあ遠ぬと。奇一とよしく門も入
る。繕きを入る。あほされ主徳ゆと傳ひをもとつだ。
ががにますぞ。こち遠へすとひつ立むハ真女もく
きも。を雄。やに安倍の大人とゆうす。年來おまよ師よ
てまた。彼西よ傍る。役よ傘もとて。屏て事す。
は役居んおきく。侍をば又と。徳東んとつと。真女もく
やく。まうや努めーす。まくらべ。う繕きをうて。うりと

おほうき御く。歎きをゆく。興げせひよ法てと
次まづにとて。腰と押て。南面の面に近へり。板の間よ
麻敷紙設け。ル脱内厨子の傍。壁代の弦。も。古代
のそれねと。倫れ人の住居すと。真女子立せて。故あと人
見家とへうゆき。寛やつゆ。出處もえーすと。只筋
は一杯もく。先さんとて。ち根平根乃。まくら。海のわふ
めお盛り。て。続子土窓。ひげく。まめや。砌まゆ。を雄ま
めゆ。て。ましゆと。まよ。まくら。まくら。まくら。まくら。
寄も。まも。も。解きうち。まくら。真女子。板紙あげて。要雄
ゆく。梢も。う。学ば難い。ある。壁。て。ひ。まくら。まくら。まくら。
まくら。まくら。まくら。まくら。まくら。まくら。まくら。

きよ言ふを皮ひひそ。故ハ都の生きる。父も母にもをす
離とまつて。乳母の伴はれ。一とび困れ。受領の下。西
縣の某よ途へられて。休む。トヨハ。生くニとをよす
ゆ丈ハ往てねじ甚かり。そらぬ病よ死あり。うも。後うれ
方とハナリ。都の乳母も尼もすりそ。がく。まき。便りよ
やと。寄バ彼方とも又ち。ぬ國とへたり。ゆはあを。よみ
ま。今より。後の路ばかり。古事記に伝ある。西方に了そと。ありよ
う。ほろたわよ捨め。だ。一柄よ。その妻。死んで。先さんと
よき故。かと。より。かく。死んで。それ。うき。妻。され。ハ。時。の。多
の。死立。を。うに。ひ。ど。おの。が。世。う。ぬ。方。と。顧。せ。ハ。親。見。れ
乃。ゆ。ア。死。う。と。が。御。ミ。四。石。を。そ。が。よ。教。ハ。き

河をまく。真女。児。まび。ヅ。く。女の。流。き。ひ。より。鷦。鷯。う。と
ひ。出。て。帰。べ。た。道。を。見。て。而。う。う。れ。が。ま。す。た。方。と。海
も。没。で。人の。山。を。頬。り。す。る。ハ。泥。深。き。と。今。此。河。も。流
く。ね。ど。只。解。ぢ。ち。れ。狂。言。ま。ほ。と。り。そ。あ。の。海。よ。す
更。町。と。り。不。幸。故。あ。で。失。り。都。人。の。貴。う。ゆ。方。と。死。す。
こそ。賢。が。り。き。歸。す。漢。よ。生。い。方。れ。う。却。き。こ。つ
り。ゆ。ゆ。き。而。ひ。古。蓋。も。せ。ね。ひ。親。兄。よ。傳。く。方。れ。お。の。づ
お。の。傳。う。れ。と。く。ゆ。う。も。う。き。と。行。ゆ。と。が。片。耐。ゆ。と。
い。た。も。く。後。ア。と。す。ん。孔。子。と。例。と。糸。れ。ひ。よ。ハ。孝。と。も。う。
も。も。れ。て。と。之。と。と。却。き。古。か。と。ゆ。ま。く。も。う。人。へ。唐
く。も。附。く。あ。よ。住。せ。ゆ。あ。に。あ。ひ。丈。の。三。ほ。う。寢。よ。う。

又常あり。これ常は都を更もあらずと云ふ。全て酒食
勝りたまち刀めあすたまで酒よろす方代れわうけ。わたり
ち。次よ辯うんハ祥あ。さればとそうて細ひ。今秋ハ金のよ
みを也。あるうちにさざれど。まさか敵を犯す旅度へ取れ
尼。ゆく。太席ハ御子その所も。寝ねて寝る。寝ねて寝る。
はゆる。太席ハ御子その所も。寝ねて寝る。寝ねて寝る。
の戸れ間とやと尺入まよ。浦ゆうたむ村穴。新よ。辯
を刀と枕よ。腰く附うり。あ。うちより、赤ねんとおつゝ
きて。戸とあらてやよ。ゆきあた。因子をと。太席うわ。腰く
召ゆかづ。辯くへたね。枕よ。腰く。腰く。腰く。腰く。
わハ海人の家よ。ゆきあた。又の心あり。いふた。冠ゆく
とり。主財と費して。實うたもの。わは。まの人の。いき

サトとあくよ軍ト。アキ。お帝。つうて。まも。資と。くも。人け。きよ
あき。あれ。ちづ。大唐。言書。す。わ。と。實。た。せ。そ。せ。乃
費。う。と。之。ど。又。の。跡。り。て。ち。を。と。れ。今。す。で。も。と。ぎ。や。り。
そ。ち。か。事。て。大。ま。た。繁。と。遼。や。ん。つ。う。わ。よ。往。よ。そ。と。り。よ
望。み。う。と。よ。又。う。つけ。く。遼。都。が。行。き。と。カ。社。め。う。あ。み。つ。と
本。よ。太。帝。と。仰。よ。づ。ち。う。と。求。わ。ん。軍。將。ち。の。佩。ゆ。よ。金。れ
輝。く。と。あ。と。實。う。ハ。よ。や。ね。よ。西。周。れ。あ。下。に。昌。く。因。き
ら。ら。ゆ。お。の。き。ハ。綱。み。ど。も。れ。を。と。云。捨。く。安。ゆ。毋。失。破。孤
弱。く。き。わ。ら。れ。輝。よ。實。う。と。モ。お。も。續。も。太。帝。グ。わ。す。り。若
主。う。ぐ。わ。と。そ。り。破。り。お。と。る。曰。來。わ。る。す。に。お。き。う。と。や。て
太。帝。よ。惡。ま。れ。か。バ。天。地。中。よ。仰。國。よ。仰。人。質。き。う。と。も
考。じ。う。者。う。か。是。ほ。の。う。タ。ミ。ア。ル。ね。ぞ。も。よ。金。破。室。

よ実きよわよあくべ。まゆせぬみて人のひきよと見えん客
てやのゆき。又石れ墨ありてまゆ窓紙ハ人れども
文におぼつう見る。まゆ不承かうりせよと罵る。まゆ
まゆ、面脩り。人侍よや出仕へ。親見よまゆす紙
紙あつよぞと呼あらり。りゆく。太郎の燐火自停にあそ。
けゆる君うりともゆ仕へ。セアと宥むよ。ひ立つりぬ
を雄力角よしのひて足代尺磐やゆだとも。密よ姫君紙が
たひととぞひ役づた。速く奏う角をゆよ。かくの内
せれもつきてあらう。後方にてすとて賜つゆう。已^アがせあ
く身の正教さへ見る。手書き勅書をば。今キテ極も
ありまじ。婦君すく隠れゆと。方角お第も。男みれば
まゆ一ゆよ。まゆとすをぞ。也

とよりまことにひそりやくさんこそ。ちか本命よ。がくへだゆきよ
事にかばさきども。又君れあともよよけたひゆ。ゆとり。
太而肩と顎をそく。ゆ。山國のちば下司よ。縣の竹林と云
人とす。我家保ふされば多く人の亡きゆめりとゆる。ゆ
あらどとす。太刀あてにさりて。あもとよよ。刀自せえ勢へ
あらぬ。すく尺とをりて。と露とづれ。ちもよひあはる
きみす。近來都城大内歴の内執れゆき。アリゆひて。權現
よも見ゆ。み事なれきりゆ。キモモヒ神室。ども。空室。のゆ
きよく。おまへ。とぞ。大室。口より。園のむす。行脚。ゆき。跡と
様。捕。く。あよ。助。の君文室の度。之。大室。の。敏。に。あ。今
ゆきよけ。ゆ。紙を。う。ゆ。す。と。ゆ。わ。ひ。た。刀。い。う。底。も。ト。司
き。ざ。れ。事。へ。き。わ。よ。あ。び。お。又。よ。ア。を。き。ん。そ。て。空。よ。お

ひきて。かうくのち。きみれあきるへり。けうひよせんとよ。
又面紙まくして。こハ清まし。見るゆきあきる。され。日本へ一色
すもぬき。むが。らは。轍。そゆ。う。ぬを。出。あきる。ん。他。すり。あ
ら。それ。ば。け。轍。そ。も。縦。あ。ん。延。ひ。お。子。孫。あ。ふ。考。乃。子
一人。様。か。じ。ぬ。ハ。海。出。そ。と。り。太。而。女。の。ゆ。紙。筋。太。主。日
の。破。よ。あ。り。あ。ら。く。れ。す。と。や。ゆ。く。び。ち。刀。と。ア。を。あ。る。よ。
大。主。日。筋。ま。く。是。う。ん。大。臣。殿。ひ。放。り。お。え。り。と。り。よ。助。内
め。ひ。て。れ。失。一。わ。向。あ。ま。く。わ。ん。名。捕。と。そ。武。士。ら。十。人。を。う。り。
ち。節。と。あ。た。う。そ。う。ゆ。考。放。が。る。み。紙。も。ち。で。書。尺。め。ま
武。士。ら。押。め。り。て。捕。よ。こ。へ。行。れ。底。ぞ。く。り。す。も。下。を。移。り
ぬ。父。母。を。而。史。婦。も。今。ハ。清。ま。と。教。誨。ど。く。ひ。そ。り。な。り。
公。廟。す。り。召。ゆ。寢。あ。ゆ。免。と。そ。中。に。そ。う。あ。り。て。破。よ。追。の。く

レ。助。を。雄。紙。ま。て。你。神。寶。と。盜。と。り。ハ。例。か。た。岡。津。
罷。う。り。搜。経。く。て。財。い。づ。地。と。渕。う。り。ゆ。か。よ。ま。と。と。よ。
を。雄。渕。け。る。紙。見。と。海。と。渕。て。お。の。れ。文。に。盜。と。う。す。も。
ゆ。く。み。タ。と。縣。れ。ら。來。の。女。り。あ。れ。丈。の。業。く。と。タ。り。と。く
ゆ。を。う。き。今。に。も。ゆ。り。女。臣。て。お。れ。の。職。を。と。う。と。る。
更。助。い。と。想。く。と。秋。下。口。よ。縣。の。姓。紙。名。の。者。あ。る。も。ゆ。も。
く。ゆ。ハ。刑。ま。よ。く。大。き。を。放。シ。捕。られ。て。つ。ま。て。仰。え
き。あれ。か。り。女。臣。と。仰。を。更。助。武。士。ら。よ。向。ひ。て。縣。の。真。女。み
ぐ。家。へ。づ。く。か。と。そ。渠。と。押。て。捕。へ。あれ。と。り。武。士。ら。や。こ。ま
こそ。又。を。雄。紙。押。と。そ。彼。か。よ。り。て。召。た。嚴。り。く。寝。う
を。門。の。板。も。朽。ま。り。折。れ。丸。も。大。き。ハ。辟。か。ち。そ。ゑ。志
の。よ。を。そ。う。人。往。と。ひ。か。く。ど。考。放。是。と。こ。と。只。あ。き。よ。

あきられても。武士らかげぬ。ちゑとくらむ。あひ。木代
老。木代の男ら。あれもひて。破綻。武士地。うよひひて。け
家。朽。器。作。で。縣。の。竹。集。ぎ。せ。れ。あ。よ。あ。ま。は。ま。と。か。よ
よ。源。流。の。義。も。ひ。安。く。ま。う。人。れ。名。へ。う。け。と。も。う。や。ゆ。く。次
け。家。三。を。ち。ろ。あ。ま。と。え。村。主。の。竹。集。と。み。人。の。賄。り。
て。住。住。る。ぐ。銭。業。よ。高。わ。棲。て。く。ひ。し。も。私。け。す。く。う。く
後。全。よ。あ。く。人。も。教。く。よ。う。や。ま。う。り。極。て。人の。住。と。見
と。け。男。れ。ま。よ。あ。く。に。入。て。漸。く。そ。序。く。と。考。く。と。え。け。漸。師
の。老。ぐ。ま。う。れ。と。つ。よ。とも。あ。れ。す。く。見。極。て。嚴。よ。尹。さん
と。そ。門。押。む。ま。く。の。家。ハ。外。よ。も。荒。ま。う。り。う。き。ほ
奥。代。方。よ。進。く。よ。あ。裁。度。く。遣。り。う。う。り。く。水。あ。ま。く
あ。ま。う。り。皆。枯。が。す。お。た。ま。中。に。大。き。う。松。の。吹

例をもとめやす。而も。あり成の格子戸をむけば。腰き風
の手と吹きうちきつたるをとす。とく。人く後よ先よ。ぞく。
を放只聲と音く歎きわる。武士の中に巨勢の並。擣う
者脇きよ。やれ男より。人く秋後よ後てあれと。板劣とあ
らかよ瀧て進みゆ。鬱ハ一すどろ御り。扇の裏より
ちじて。中へ。古き様と。ちく。たれぬく。やう女御り。ぞくと。
然持女よせひて。園の。おひ。呪つも。あくまゆれと。つと。言
ふせてある。紙と。進みて。擣ふと。せに。忽地も。驚ふたり。
の。躊躇。は。嘆く。許多。人。逃る。間も。うくて。そこよ。倒れ。
御戸。よ。女。いづも。切り食ふ。だす。に。うり。レ床。以上。輝く
一きわ。人く。ゆく。ひまく。ひまく。ひまく。ひまく。泊錦。異の。寝。優文
縁。捨。勧。懲。懲の。數。じ。失つ。秋。寂。う。武士ら。も。紙

うりをく。様一からうみどもと洋は添ふ。助も大主日
も妖怪のやせるゆ代すりて。を敵とあひゆ紙ゆゑと。さ
きど幽鬼多きとちの鏡によきれて。牢裏は繁ぐ。
大室は又子多くれあと宿して。鬼と嘸よよりて。万日がほ
よ教くる紙めりて。かくてせようち拂人も面俯うり。
姉は大和よおをすみ拂ひて。まぢに彼所は便とつけ
せり。憂りたるは、もきぬるのう。ゆきく月
ころぬ。せとく人と流て出でと。二市の姉の家は石楠市
とよすよ。田急乃令忠とよ高人うけしを拂が拂ひ
ある紙あひ。か月ごめれゆどもといわ。ざりて。いつく
までもあよ住む。今はよ當なり。年めうて二月
よきねじ石楠市とよハ泊脚。まちうれ不き。佛の

中にはいか顛えあへくるゆ孤。唐才すでもゆえふると
て都よりき。都より諸づる人のまへて多くり。と。さ
づる人必あよ居を。朝と並べて旅人とぞ失ふ。田急
きが家へ泊脚。なれど紙商ひゆを。は正しく人せてもう
申す。都の人せ思ひの諸とぞえて。いとすれし女一人。襲
一人。まわりひととあたえよ。げく。襲を雄衣と。若夫
りあひますととつよ。琴きく尺れば。かく真琴まろや
き。ある琴とて内よ便す。令忠支拂て。いとつよ。
がの思ひに遡る。あれよと考め。すと涙れ。と。人々
そもとく。立強く。真女子へまり。人々。あすこあそ。
君の君を恐れめひそ。おのぐんより。鬼よ空一すらゆれ
出。さよ。古き家りとりく。ゆれゆ縁すもがり。ゆれ放せき

さんとく。内後家初まつてした。かひあつてあひ足す
みれお。さよあひてお君すくちもひて坐。松り。障きお
き。ばげん舞きり下りて。あらうかのどりかの影。伏い。ま
せん衣。よ縫用あり。口よどく。そぞれ。新あり。此。き。まわらと。じ
みく。内舞ひと解せ。女を雄渲人。ぎちと。你。まく。人を
らぬ。秋捕。それで。武士らと。もよひき。されば。まの。にも
壁。と。清す。く。蔬果。て。ゆく。鬼の。ほ。き。高。よ。一人。房。紙。
くら。捕へん。と。すれば。忽。天。舞。麿。と。齋。今。被。う
が。き。消。ぬ。と。云。ま。れ。あり。凡。つ。た。又。遊。あ。く。行。と。う。を。す
や。た。され。と。よ。真。女。子。海。と。流。して。ゆく。と。さ。と。あ。な。の
そ。わ。う。され。と。姿。う。言。す。も。そ。ぞ。ゆ。せ。ゆ。君。公。麿。よ。召。れ。ま
と。守。一。より。か。う。て。隣。と。う。み。隣。の。あ。は。か。と。ひ。隣。よ

壁。と。あ。れ。あ。廊。は。う。ら。や。我。と。捕。ん。を。と。死。な。御。書。写。り
や。と。ま。る。や。う。計。較。つ。る。や。と。後。私。り。と。や。難。破。乃。方。小
遙。れ。一。が。と。左。消。を。ち。ま。洋。く。ち。の。左。拂。よ。た。の。底。魚
つ。た。二。車。の。枚。比。考。一。あ。く。左。き。脚。よ。き。う。れ。あ。よ。と。ハ。
即。く。よ。大。然。の。左。徳。ウ。ソ。リ。ウ。モ。マ。リ。シ。キ。ツ。左。様。く。の
神。廟。へ。仰。と。女。の。盃。を。出。す。き。あ。れ。丈。の。肩。く。め。公。主。
ア。と。あ。れ。す。と。肩。く。み。げ。く。や。す。ね。病。を。う。と。よ。う。け
を。ゆ。と。あ。ぐ。と。法。を。雄。成。ハ。敷。し。式。ハ。隣。主。が。ま。く
よ。べき。羽。も。や。金。忠。史。暉。真。女。子。が。ま。わ。う。せ。ゆ。く。ま
よ。げ。女。一。き。ゆ。す。ひ。と。と。努。勤。人。を。も。す。要。雄。け。り。の
経。り。と。ハ。世。よ。遇。き。み。す。と。と。り。よ。す。例。あ。え。た。世
よ。も。あ。く。じ。う。と。も。く。と。る。す。と。ひ。ゆ。と。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。

きた。妻旗背みきびをともねくや。先まゝせんとて。一間さるふ
よ遠とほり。かよ。かよ。一日二日と。まことに。今忠丈歸かへり。歸かへり。そ
ひす。歎かなきたの。け。も。志は篤こだきよ愛めいて。そ。雄おとす
や。ほひよ。婚儀こんぎと。う。む。を。雄おも。り。よ。せ。そ。れ。そ
より。密ひそ姿しきれ。よ。所ところ。ま。紙かみ愛めいよ。絶絶え。び。の。を。紙かみえ。み。く。葉は
よ。葛くず博はくや。う。向むかひ。ふ。に。お。く。そ。て。か。の。雲くも。初はじ宿しゆくの。ま。さ
壁かべの。鐘かねよ。雨あめ。收めぐら。ま。り。て。品しなひ。あ。よ。す。れ。運うき。紙かみ。眼まなこ。る。
三。月つき。も。う。り。ぬ。令忠丈旗き。帰かへり。そ。ひ。て。都みやこ。そ。ろ。に。ハ。竹たけ
ざ。も。あ。れ。你きど。ま。を。が。よ。紀路きじ。よ。は。ま。う。わ。ん。う。。若わか細ほそ内うち
吉よし野の。そ。ま。は。つ。と。ま。れ。不。可。リ。三。船ふなの。山。菜な。播は川かわ。常つねに。見み。も
抱いだ。ぬ。と。ば。じ。は。づ。た。あ。り。ろ。が。く。ん。ば。ざ。ゆ。せ。立たく。ん。と。く。真。安
児こども。う。笑わら。て。よ。紀。人ひと。そ。ー。と。尺。ゆ。り。要。と。都みやこ。人ひと。も。夕。暮

と。腰こしよ。穿うえ。は。紙かみ。方ほう。雅うき。す。り。人ひと。用もち。さ。否ま。へ。通とお
乃の。長なが。ひ。と。あ。い。と。い。て。必ひ氣きの。り。り。く。う。た。病病。あ。れ。へ。往むかす
よ。え。出で。立た。は。う。ね。ぞ。と。憂うれ。ふ。女めの。產うぶ。必ひ約やく。こ。ひ。す。と
り。よ。と。そ。て。あ。ゆ。ま。う。こ。そ。病病。も。若わか。一。や。車くるま。ア。レ。て。称め
い。いた。も。り。く。土つち。踏ふ。セ。ま。く。せ。で。角くづ。り。や。そ。ん。ひ。足あし。雄お。せ。い。そ。ら
そ。ひ。り。と。き。う。つ。ら。ん。と。そ。支。帰かへす。や。う。り。よ。そ。雄お。も。や。う。れ
の。か。く。の。ゆ。と。道みち。よ。例たと。く。そ。も。の。つ。そ。で。か。り。と。ゆ。ゆ。よ。不。通つう
き。づ。出で。も。ち。ぬ。人ひと。と。花はな。す。き。く。出で。れ。ど。真。女めの。す。ぐ。藤とう。う
よ。ハ。信しん。す。う。も。わ。す。そ。そ。及。え。り。る。行。東とうの。院いん。金かな。ひ。て。ゆ。す
ゆ。え。か。か。け。と。ハ。ち。よ。宿とね。の。主おの。傍そば。近ちか。て。ほ。ま。へ。運うき
宿とね。か。よ。花はな。も。き。み。ハ。教お。ま。く。學まなぶ。け。教お。ま。く。學まなぶ。も。や。流なが。られ
ど。於。紀。方ほう。に。あ。べ。一。作さく。ん。と。く。外ほか。食く。と。清きよく。と。食く

夕ゆきをひく。宿も。晴れに夕ゆき。ば
度ひるがす。あやこ。傍せども。りよん。あ
のうども。そと。とく。けり。あひて。はまねえ。あ
ゆす。そと。日。山里。さへ。同。あらわし。
よひ。游。あらわ。方。そ。足。あ。なづ。われ。と。彼。方。に。あ。れ。人
きて。坐。る。谷。谷。縁。り。く。か。り。ゆ。いす。人。行。幸。れ。ま。あ。り
て。石。石。お。路。つ。せ。り。お。び。流。そ。に。ち。え。お。縫。も。あ
ふ。連。よ。き。と。同。も。あ。や。に。か。り。ゆ。核。破。子。お。放。く。く。詰
あ。き。よ。岩。う。絶。づ。ひ。よ。あ。る。人。あ。り。巒。の。縫。麻。と。き。づ。く。
や。く。され。ど。ひ。見。ひ。と。健。す。か。る。み。う。は。路。れ。下。に。あ。り。
ま。る。人。く。と。や。そ。ゆ。け。よ。ま。る。た。真。女。ま。る。も
け。人。と。背。お。筋。く。筋。お。樂。二。人。と。す。ま。り。て。あ。す。

レ。邪。神。キ。と。人。と。ま。ど。ち。ひ。あ。が。ま。れ。わ。り。ば。り。て。も。と。そ
ほ。ゆ。ゆ。と。ゆ。て。ば。二。人。忽。躍。り。た。ち。く。游。お。入。と。乃。が。あ
大。虚。よ。湯。わ。う。そ。て。乃。に。ゆ。く。所。く。た。雲。持。墨。と。う。ち。く。ば
く。ゆ。く。雨。簾。と。れ。と。う。あ。る。義。人。く。の。慌。忙。愁。よ。と
ま。う。ゆ。く。て。人。里。に。ぐ。る。賄。ま。き。お。よ。が。ま。り。く。せ。る。あ。ち。も
甚。と。旅。お。旅。よ。ひ。妻。お。の。面。紙。と。た。け。恩。神。せ。あ。る。
徳。ま。れ。め。う。君。敵。を。そ。だ。ひ。よ。命。を。も。あ。つ。を。し。後。く
脚。く。身。と。り。そ。要。雄。地。よ。寝。る。て。け。る。れ。始。す。り。か。り。ゆ。く。お
神。の。年。經。る。地。き。う。れ。が。せ。ハ。嬌。き。わ。よ。と。牛。と。身。と。ハ
麻。と。生。く。る。と。あ。ひ。て。お。抱。う。体。生。と。ソ。う。は。懇。を。を。ま。る。
を。そ。そ。お。麻。よ。斯。く。と。と。と。え。う。か。く。ま。で。抱。お。き。お。

す情ゆきぬば。をそらくひ余とおひあへーとよたんく
いすゆきを感ひつて。あと宗までを津作に了そとねま
へ。あお教く。おのとけり神もあへ。大倭の神社よりまつ
あ麻のゆくとひのあう。道の御尺をくまひせん。ひぎを
とて出でた。人くほよつきて席をあす。附日大倭の
たよいきく。おが葱と諦し。且英法絶三足翁紫佛二
屯と遠うあ。おは妹室の方禊一ゆとつゝく解よ。
みこれと納りく。祓祓らよわうもあく。自ニ正一屯とよく
すて。要雄よじく。高你う秀藻よ野毛て你と縛よ。你又
高ゲ假の化よ懸ひきれて丈丈か。今より雄氣してよ。
ひと教まりあきばげらむ邪神と遙りぬあがかどめうき
ゆらくひと教すりませと。突やした歌へぬ。要雄麦代さあ

まよあくちよ。禮言聲びて席をあるを忠よせり。
は年月高よ懸ひされ。へ已ぐなれ。一ゆみり。教見え教と
もまで。君う家れ禡うん。由縁す。古敷ひとゆづけあ
れど。又もあづさんと。紀の園は席をな。父母太郎支ぬ。け
退一ゆづるを伏すて。ゆす要雄が過す。ぬと懷も。ぬと女
懸の恵称き伏せれど。かくて。腰よくあすまたと。妻と之
をふととてたうけ。きの里よ草の庄日暮のあり。女子
一人りしおと。大内の宋女にはゆく。そとあり。げ度いよ
ゆき。けを雄と舞う。にと。媒氏とりて。大をり神へと
納す。見るうたうて。所圖ととつけ。かくて都へも。途の人詫
む。やうづけ。宋女富子。かのものとびてゆる。かの宋女
え仕へよ。訓う。を。あれが儀よして。姿すも花すき。鑑

タリ。先雄あよ遠へられて居た。け富子がかもりとよも
ひよきひぬよがの地おちが愈いたせり。とももくもりひす
さくべ。ちくべ。次の秋あきに書をか書き。二月。秋あき月つきの
醉ゑうちも。か來くわの太内佐おほうち。き歌うたれ人ひとをこらへまき
んが。かはりとくへられ中なかね寧やすわの裏うらをとよ流なが
ゆく。今いままくあそむばれす。國くにに。家いえふ而ながら。
あく。左さき妻めとあれあひて。かくとも。みか見みか人と財ざいに
あふれ。こきよりあて悪あくあれと。ハ妻めアそゆる。西にし
く真ま女め子こが嫁よす。少すくない。少すくない。少すくない。
只ただあまれす。城しろ女めをみて。若君わかみ。腰こし。もひそ。海うみよ
ひよ。監かうり。よが迷まよく。まされやとも。まづき縁えんす。わ
あれば又またあひんす。の城しろ。地じ。人のよと城しろまく。くち

ガ。強つよき。行おこさん。よへ。罪つみ報むくい。是ぜ。絶ぜつ滅めつせ。さ
をうううとも。君きみの血ちを。華はなより。容よ瀆いつき。さす。
ゆく。肉身にくじんを。ひざに。下くだ。累たまごひそと。よ。兵ひつわきま
よ。か見て。今いままく。あちに死死入いる。屏風びやうの。しろ
す。若君わかみ。よもじう。あ。かく。を。死死。由ゆ矣い。ハ
生うる。まる。やう。尺しゃくた。又また。強つよと。老おい。眼まなこと。開ひらて。伏ふく。よ。附つき。
和わう。弱よ。つか。も。く。わ。ま。う。ど。只ただ死死入いる。よ。と。死死。あ
ね。か。て。國くに房ぶ。と。老お。か。く。店てん。よ。せ。ひ。か。く。と。死死。た。の。あ
う。り。ま。き。い。た。と。て。放はなす。く。か。く。か。と。い。の。背せき。よ。ま。ん。と
か。と。小。や。た。と。て。か。て。店てん。も。妻め。も。面おもて。ま。く。して。款かんき。ゆ。ぐ。い。
こ。ひ。う。す。ざ。き。よ。都みやこの。鼓つづる。寺てらの。傍そば。よ。く。懲こま。懲こま。よ。道みち。づ。づ。が。
あ。す。り。け。ぬ。岳だけの。葉は。若わ。く。と。い。も。旅たび。法ほう。ま。



久疫病歎灾體を爲すも。猶も。ばたけ人數
あり。ばは昨夜。あまた。もつげよ。済
あり。あきこひすと。彼ればは昨夜。身をもくと。ころわの
盡わらぬ。扱んを。身を。詮きみに。もあし。必都。すりもとと
ます。めよよよ。人。心あわぬ。は昨。す。が。旗。茅。紙。ひそく。茶
のあと。酒。小瓶。よ。壺。て。か。比。圍。房。よ。ひ。又。人。
は。仰。物。わ。ひ。て。老。ても。も。必。そ。ま。ち。も。せ。け。勉。只。今。扱
て。口。を。を。今。と。も。く。圍。房。戸。あ。く。紙。通。と。か。入
む。身。下。出。て。身。よ。ひ。身。行。わ。を。う。れ。お。そ。戸。口。よ
充。満。て。身。と。積。る。身。も。白。く。輝。く。し。く。眼。へ。鏡。の。め。角
ハ。枯。木。如。三。尺。條。う。れ。口。屏。き。あれ。れ。身。は。口。只。一。唇。よ。飲
ん。身。か。と。見。あ。身。と。呼。じ。く。い。す。身。ト。小。瓶。と。も。そ。よ。

すと。たつともう。展^{てん}めびをひ側^そにて。からじてのう
せあり。とくよむせひ。あるゆる。崇^そめすれゆ神^{かみ}より
りの兵^ひ。とは师^しらう。引^ひきし。けり是^いきだ。ほ^は今失^{うしな}ひ
てんとひく。終^{まつ}入^いれ。とく。抜け起^{おき}す。どすて。面^{おもて}も肌^はもあく
赤^{あか}く潔^{きが}き。よ。熱^{あつ}き。タ樊^{はん}次^じよ。手^てす^す。今^{いま}にし。
毒^{きさ}氣^きよ。わたり。と。口^{くち}を。後^{あと}へ。只^{ただ}眼^{まなこ}の。まを。て。おひと
な^なされど。焚^やき。き。あ。あ。あ。漬^{ぬぐ}き。す。れ。ど。つ。ひ。よ。死^し
る。されど。焚^やき。人^{ひと}。ひ。す。魂^{たま}も。身^みよ。浮^{うき}ぬ。う。り。て。泣^{なき}。ま。を。雄^お
すと。と。收^{とき}れ。う。く。詰^つく。は。吹^{ふき}。も。引^ひき。と。狹^{へば}。狭^{へば}。我^わと
纏^{まとい}。あ。ひ。よ。あ。ん。き。わ。探^さ。し。ゆ。と。き。ん。
ち。う。今^{いま}。ま。い。実^{じつ}。う。ば。今^{いま}。ハ。人^{ひと}。と。か
す。で。ゆ。と。肩^{かた}。せ。と。圍^{いは}。房^や。よ。ゆ。と。社^や。め。く。こ。ハ。わ。よ

想ひゆうとよど。文よ少と報よか。こよゆく。戸を敲よ
ゆき。もの發う。たまもきて。ば二人をもひゆる。義子を
放よむ。うして。君に付讐よ。私と投へんと。人をつかひ
ゆ。け後も仇と。りそ報ひゆ。君が首身のまゝあし。ば
人ともすて。斧さる刀を。かん。鉤手も。君負揃はれ
とちがて。達く。れゆんと。ちがつと。いとけじて。よ
ぞうて。うれ。を。雄ひよへ。世の後も。すら。あら。人を
虎と害す。んきれども。虎ありて。人と傷る事あらず。や
はり。人を。かねより。私と廻すて。宋。翁。か。れ。か。す。あ
ゆた。や。も。言ひ。す。も。ひ。翁。き。報。ひ。と。う。り。よ。が。ゆ
つけ。す。と。者と。義。ふ。ん。ひ。ち。世。人。ま。も。か。ち。ざ。れ。が。あ
は。あ。く。く。の。歎。き。ゆ。も。う。つ。あ。う。ば。じ。ま。み。す。が。余。ひ。

たすけよつ。然れどづくまも連ゆけとつむ。ひと跡けよ
跡跡よ。又立せて店のよじひ。やうほすれかの屋で丸
だ。あにあれて人へと芳りやんへとひきえどさう。只今
眼ゆきうべ。おまえの令とも思ひやうをくらひ。背せよ
背せよ。秋かられかねまともあきうきう。ゆひうひきえん、大宅
のへくのあはとやもちづく。お計較え。小松原道成寺に
は海和萬とて費とき引の所ちもと。今ハ老て、室の外も
坐をととゆど。れゐよひつたものと捨ゆもととく。るまく
いそぎゆくもぬ。道途さればおきりをうし。翁若よも。老和萬
眼差とゆきりゆく。げわううりとゆて。そへほます。おさじ
今ハ老朽。翁若よも育え侍ねど。君の義め室ひ
善くもあくまづおも。ばゆも解まく。而後タヒテ放ふみ香

わすれきも構りて勤むせをとて。老和尙をと相元。
ほきとくは御子。徳祐の背よき。身に屏風の背よき。
尺をうり。小蛇をひき。是とも投て。糸は納む。いがむしは裏
とりすく。射す。やひそと。ゆよ興は。糸を身ばく。掌ぬ
わを身と流して。駆まひす。蘭善は。徳ア。ゆひ。堂は奉
とほく。射せ。射めす。よ埋さ。永劫が。ひとせよ。もとと
と戒。いはゆ。今我地。かづ。ありと。や。おき。女子へ。ほひよ
病よ。そもく。りよ。くき。のを。故ハ。今。恙。うと。さん。が。も

雨月物語卷之又

あやづきん

也。收菴禪師とひよ大徳の聲からりゆうけを。總角より
教かれ。故紙あまて。わびて。常に身を雲あふゆきをなす。
至清の國の龍泰寺よ。一夏と満。一秋ハ奥羽へ。す
往來。膳立あす。ゆきくして下野北國に入す。安田とひよ
里うち日入をしてぬども。大ききの家の賤ち。一けたた立
よりて。高級り。もろ清く。田畠よりかず男等。美貌にのみ
傍れ。立。はらむ。大きき。物を。たる。あく。山の光。こむ。來
ざれ。人を。お出。す。と。ひの。ド。は。あれ。内。も。強。た。ま。し。安
親を。泣。さ。け。び。展。物。び。く。涙。く。よ。氣。は。す。ぐ。山。楊。城。

雨月

卷之三

さうすまう出。かひの方とだらした年紀いそドよちくに老病れ。
跡のこよ酒深みどり乃巾のきんと被はき。身に墨衣くろい被はて。裏うらは
わ紙かみ背せきよあひあひう。が。杖つえとりてさう。まもれ。檀だん越おくらゆ
ゆうう体からへや。遍へん轍われ縫ぬい今いまれ。おひうりをん
きて。あてに人ひとと行ゆ。ちりひそらが。矣や。あらそんと。疲やせ
はゆ。座あ木く櫛くし。持もる。抑おく。簽く。漱す。目め。眼まなこ
あ傍そばと。尋たず。まつ。せ。一ひと高たかと。供養くぎやう。と。罪まことと。贖あがふ
まつ。と。被はまひて。奥おくの方ほうよ。近ちか。あ。下くだ。食く。も。うち。め
て。食く。け。と。被はまひて。奥おくの方ほうよ。近ちか。あ。下くだ。食く。も。うち。め
鬼おに。食く。と。お。それ。も。ま。の。足あし。乃。ゆ。も。う。す。り。あ。に。希け。有う
乃。あ。が。ア。リ。れ。ゆ。妖言ようごん。す。ま。た。ア。ジ。シ。ヒ。リ。け。出で。

タリ。ぬと云ひ。建室と云ふを。拂取の後。依嵩より。と。室
一あり。注は源かく。叫びに。夢かく。あすりに。散うせなよ
すに。火よ焼。去よ葬。すよ紙もせよ。膚よ膚とりを。ひよ
す紙。うよて。田紙。紙あよが。終よろ紙。まし。すよくあり
日よ遠。ちく。戯せつも。そ肉。膚を。燐。衣齊。肉と。吸
骨と。膚。と。ぞ。寒。へ。ま。ね。寺中。れん。院主と。經鬼よ
すり。絆。い。つ。き。と。速。忙。逃。す。の。も。の。移。く。里。に。り。そ
人を。移。教。一。或。ハ。墓。休。あ。む。て。腫。く。死。屍。と。燐。よ。あ
ま。寔。よ。鬼。と。ソ。カ。の。そ。者。わ。が。ア。リ。に。ハ。す。も。」。と。そ。
現。よ。く。タ。リ。絆。い。紙。と。行。と。され。ど。前。と。こ。と。紙。返。し
い。ん。戸。あ。く。た。事。紙。か。き。く。密。く。開。して。ある。た。近。居。ハ
園。中。も。す。く。く。人の。従。本。さ。く。く。う。や。う。か。り。す。ゆ。え。せ

あり。こそ。客。傍。代。も。遅。り。つ。る。う。と。が。て。ほ。房。この。わ
か。り。伏。守。を。修。め。世。よ。も。か。く。不。得。れ。う。も。あ。る。の。れ。元
人。と。う。や。れ。て。佛。菩。薩。れ。度。の。廣。大。か。く。紙。も。あ。げ。歎。を。仰
す。懼。れ。ま。し。に。身。紙。縛。う。き。の。そ。モ。愛。熱。教。会。業。隣。よ
懼。と。て。或。ハ。故。れ。形。成。あ。ま。く。て。恚。と。報。い。或。ハ。鬼。と。う。憐
や。う。て。夢。と。見。い。あ。り。往。古。と。り。今。よ。い。て。ま。で。算。す
み。そ。く。が。て。又。活。か。く。か。て。鬼。よ。化。す。も。あ。り。神。王。乃
官。人。へ。地。と。う。王。令。づ。母。の。夜。み。と。う。呉。生。グ。妻。ハ。城。と。う。
又。い。か。（あ。る。傍。卑。）と。た。家。よ。捨。寝。せ。に。も。秋。雨。月。も。げ
く。煙。入。き。れ。ま。い。さ。よ。い。も。度。く。せ。ね。ば。秋。う。く。羊。の
鳴。こ。ゑ。り。や。え。け。づ。頃。刻。）と。経。の。神。う。ほ。う。か。ひ。く
あ。ま。り。よ。縛。き。の。あ。り。傍。疑。）と。尼。と。村。よ。鬼。す。る。様。桂。



もてつと娘の子れど。たゞよ呻んで枕にたどる。このもよ草乃
廻す。ものが伏せまへる。あたひを金を。あた女乃あたれてをあ
受け。廻はく金ともいづせん。捨てて家はゆび。モノも
又たすけにつたてモ里とすに。田中より人多く集ひてあり。城
尽す。宿も立すりく何をかと尋ね。よ。里人のよ。鬼は化
すを捉へ。今去よ座じうりとかりとす。されど坐す
を皆女みゆく男うるわの。かあたりとす。凡女の姓は
院。院主。ある清すだ鬼も化す。又男みゆく隠
乃陽帝。はるか麻叔謀とよ。小児は肉紙等にて清す
氏乃小児と偷す。あを伏せて嘗りもあされど。是ハ清す
を夷んす。さればアリ。すとへ美き。さるふくもが代傳の
君よ。すりつこそそ。ふきて周強もぞあら。だも平生乃り

徳れり。こありしハ佛よつづる。ゆに志欲と焉をうかれバ。
そを四百やかまく。やど。ありとて絶はゆき。さき
き。一そび愛熱乃遠路よ。そがれ業火の識。う
そり鬼と化すも。ゆくよ直くたす。死性。多と不
き。う。人放せむ。妖魔とす。收も則も。幽黙め
也。ハジハシがたり。うける。老讷り。この鬼と教化して
本源れんよ。う。先を。あもし。食の轍ひともす。見
あと。たとえあらぬと發して。終。食を改め。其よ擲
て。後悔の事。詫す。おもじ。因れ人ハ津たにうまれ出づ
ぐ。あくや。波と流くよ。海とびたり。山里れゆどり。因縁も
す。日あま。月もゆく。古戸の門よ。漬よ。秋乃深
す。紙もあく。ひざ休まを。延とて。もんも門戸よ。す

山院人より仰ぎ様。樓門の前棘あひ入り。經閣もゆく
苔蘚。織網とひそびく法佛の鑿き。遠みれ裏後塵
の跡とうか。方丈廊房までおまか所へと荒らす。
日乃新申にがてくは。收房禪師寺にて湯浴め。身
遍糸の傍今夜ぞつりたる紙が一物へと。草木にたゞ吸
どもすてに離れ。眼蓋より瘦枯る傍乃所くとある
出候。すなばくて。内房ハ何地へ通るやくまことに事もや。此
寺ハさむ中緑あり。かく森もえ。人を煙の世と見し
也。一粒の赤粒もす。一粒はかまぐれをうかす
をゆ里よ出よと。禪師よ。こそひ夷流の國と見て。も
内奥へゆる轍すが。この葉乃里とよした。山の靈水れ流
のむき。詠歌をすまぐもあひゆ。日も斜れへ里よ

すてんもをよけ。却てもと一あはか。後へおげせ信云。
かくせきをもよめぬゆもあり。流てよじゆか。一
度くゆよしたもわば。傍れまほゆゆをよとて遊びお
ともひただ。かくよりも一言休向ちと。やうれむよとて
庄兵りし。看く日ハ入墨。雪園れ在りひととてだよ。
枝と照れをすのあひうてわうねよ。只頬みれまよぢうく
ゆ。あひうれ信も又眼蓋よとくまれ。秋丈て月れ秋
すあひゆ。新浴拂うてくいすくはくもす。只頬みれまよぢうく
まくみゆをとて大よ伸び。毛髪いづくよ落とさん。こりと
よ。すあひつれと禪師がお城まよびまうさんども。又よ
禪師とよみれし。堂の方に遊くよかと見えど。庭と

やうりく曉りゆゑひ。遙よ宿を仰て起あひ。夜ゆてお月れ
す。出ぬをと。洒れ壁てあくににて。猿師がりと乃正よ
在をと。只あまねても形よきのたゞも。柱より下を
お疊紙つきて残しやうけ。猿師ちづくちみたりて。院む
ちどり數を残す。机ゆとゆをせ。傍が肉又腰をみて
り。あすけ。猿師。師ハ衣もすこぞとに居をたまふ。
猿師は。あくにありく禪ゆ。あれ。あくに猿師。猿
ゆくも人の肉とねりども。すゞ佛身は肉味ともべ。師ハ
またも佛ゆ。鬼高れくさき眼とり。活佛乃本達と
名とす。もとゆくぬ理うか。あれ。あくに猿紙
倒れ。猿師。猿師。里人乃かつて紙すけも。は一旦は愛
鶴よ。紙すけ。忍鬼高よ。墮泥しづか。あくに猿

とも哀。も。なり。え。希を無闇う。秋く里よ。聖
人と害するゆゑよ。ち。祀里人ハ安きる氣し。秋これとゆて
於るよ。聖びぞ。情ありく。蔽化一。幸深ひ。よ。ゆく。し。人と
カ。汝。汝然と。と。す。や。吾。あ。う。比。猿。師。ハ。猿。と。と。師
カ。かく。清す。祀。業。を。移。よ。り。も。ベ。祀。あ。と。わ。ム。蔓。枝。
猿師。は。汝。守。と。す。が。も。に。事。れ。と。と。箋。す。れ。あ。乃。キ。の
カ。る。石。れ。よ。社。や。わ。く。馬。う。波。そ。ゆ。紺。塗。れ。巾。と。脱。て
猿。が。隠。よ。被。し。れ。猿。の。ま。り。二。タ。と。枝。猿。よ
江月照松風吹 永夜清霄仰取あ
汝あめがすて。餘よ。け。向。乃。き。紙。す。れ。と。玄解。ゆ。則
とものかう。申。本。れ。拂。る。よ。今。よ。か。も。と。念。じ。よ。義。て。ゆ
ト。ア。終。よ。げ。の。ち。八。里。人。が。り。定。と。の。ぐ。れ。と。之。ど。も。被。猿。

生れぬもこれぞ。類ひ思ふ人へ山よの事ハシ。以
ひナリ先づり。一とそ遠くまちく。いふひ乃キ十月の初旬
は店太徳。奥路カミロにかづ。また又あらわら修び。がりて高乃
あらうがる。よ立すり。傍ハタケが消息ハサシテをあねゆ。夜ヨメよ移
そび進へ。由傍ハタケ太徳より思ハシてびらはして。神カミ。
人皆津去にうすんむすんで。されどひよゆくゆへもそ所
一ヒガタ。一人うそのがむりの所ハシ。さうゆく消息ハサシテ成カニす
竹カタタケ林ハラ。すく今まで活ハキくを知ル。今秋乃西泊トマりよ
がのき提ハシタとすくひ候ハシタ。誰ハシタも超ハシタへたすまへハシタく
禪師ハシタ。他若果ハシタよ基ハシタ。近代ハシタや。とすも道ハシタは先達ハシタの
師ハシタともりべ。又活ハキくあると見ル我ハシタす。一個ハシタの津ハシタ。か
つて消息ハサシテとよすをあじせ。漫ハシタび山ハシタのがく跡ハシタよ。い

と處ハシタよも人のいき。絶ハシタくと尼ハシタく。去ハシタくとあくけハシタく。而ハシタくと
ともあれど。まにのくと尼ハシタく。秋尾花ハシタれ。人ハシタりも
たゞ生花ハシタ。病ハシタて兩ハシタりて降ハシタこむ。こゝ乃經
えり。生花ハシタ中ハシタに堂閣ハシタの戸右ハシタたよ頬ハシタき方ハシタ庫裏ハシタよ
隠ハシタす。廊ハシタも朽ハシタく。雨ハシタぬくと苔ハシタけ。うそかれ。傍ハシタと
すくと。簾子ハシタのほとれりとしよ。秋ハシタれゆく人ハシタ。人ハシタ。
僧俗ハシタもわうぬまでよ盤ハシタ發ハシタも。下ハシタに。薄ハシタいとが重ハシタ。
尾花ハシタち。くみ。うすに。妙ハシタが。うだりたれ。やと
もうえぬすに。あれ。唱ハシタひ。歌ハシタうけ。と
江月照松風吹。水波清霄ハシタ。えのきかき
禪師ハシタ。心ハシタして。やう。樹ハシタと食ハシタ。化度ハシタ。えのきかき
と。一唱ハシタ。他ハシタ。改ハシタ。歌ハシタ。狂ハシタ。忽ハシタ。乃日ハシタ。おハシタ。

きえうせと。がりま陣巾と脣のこせを茎葉にちぢめりける。
次もえーに会れあくよ漸ト死るもあん。ほとたと
わらわた。終。子をも禪師れ大徳雲ノ裏海の外にもす
ゑく。禪祖ノ肉いまと乾きどとせ林歎しけとす。かく
て里人あらまく。ま内と清め。修理とゆなし。禪師と推
たゞとみくちよ後しりけるより。故乃密宗とあくあく。
曹洞乃靈場と却れ。後今カ不以寺をなすと常え
てありけれとす。

貪福論

陸奥の國蒲生氏師れ家よ岡た肉とつ民士あり。福む
りく。名前たう。丈丈乃名公園の東に震ふ。士いと偏圓か

あゆあり。家老は福づふん常れ民癱よかく。かば。僕約
と家とうく家の摺とせ。ほどよ。ひと聲て。安昌。うり。
う軍と訓練を向よ。兼味故帝所。始一まだ。庭上々
西よ。許多。金紙布。波へく。ら紙あさり。せれ人の口花
よあよ。持き。人それた肉を。折ひ。事。高齋
せ。情れ人なりや。心もじま。紙。如。も。け。も。あ。に。そ。た
男よ。莫食一枚。かく。お。る。の。も。紙。穿。つけ。く。ち。く。
門く。よ。崑山。乃。壁。も。ふ。れ。す。世。よ。ハ。瓦。保。よ。印。く。か
世に。う。れ。て。う。矢。う。ん。施。中。裳。袴。墨。陽。乃。鍔。さ。て。ハ。あ。と
ミ。の。財。寢。す。れ。と。良。鍔。う。と。と。人。の。歎。よ。ハ。達。べ
う。と。令。乃。使。ハ。天。が。下。れ。人。と。も。達。へ。つ。也。一。民。士。す。り。漫
す。あ。り。よ。べ。う。だ。か。う。と。勝。へ。差。じ。き。う。你。勝。へ。第。北

私閑よどち財とほのハ鳴ゆれ事ナリ。寢タバアヒ
ヤテ。十あれ金紙絵ひ。刀とも歛して呪つひそり。人これ
絶へて。た肉が金紙あるもハ舌喉にしと飽さる事ナリ
アベ。只あせり一奇士ナリト我ひひもやーける。モ秋田内
ガ上よ人の來るも一けふ。同あらく足をだ。地脇ノ下
ム。ちひきげうもあれ矣とゆくとむとむ。内丸とあ
て。きにあらへ此私は糧かんとくとを考量れ男ともそ
ありつめ。你がナレ老もも形にて極うと屬ひはま。
狐狸ナガルたまひも。られかほえす例りある。林の夜の
月扇。よぞと月をすく。すくも邊だる客をす。
翁より。ありうちハ魑魅はあべんとあらと。老がつき
精。老をの精是ナリ。おまごくきてす。修ムヘルマ。

秋吉せんとて摺てまりたまう。若ぐ今自家れみと裳ド
着ふよ。身も。あぐらくも病を愈ともかく。わきあんと。
假よ化と見ちやうが。十にかくも益えん。深波かう。ばた
き。腹うどだ。わざとにはまう。眼と扇とげゆ。まとも
ぬて。猪うねん。太聖乃道う。ま紙世乃悪てもに。ある
ものか。かく。一。富の力のいがほく。頭うとり。晋乃
石崇唐の王元室が。また豺狼蛇蝎の達の紙い。まう
き。仕方よ。富の人へ天の財紙を。地乃利と寄り。ま
うの。かく。富も紙ゆ。昌望齋。封せんをとく民
よ産業と。翁の金を。海方れ人利よ。きりくあに。算計よ。
翁仲九。いづ法度と。あをとて。翁ハ信。をう。富貴ハ列
國。翁の富も。翁。危難。子貢。白圭。グ。後財と鬻。利と

。巨萬の金を奪ひ。それを人をうながして貸す。借と書く。やも体もりて洒とく。のちに士卒を殺す。あらゆる者を。百姓は勤て穀とり。工道を修く。それと助け。商賈を務め。そが通り。おのとく。が産出。治ら家と云ふ。祖と孫と。勢う。子孫と達うか。人との何事か。後もとす。おとせられ。市に取せば。富貴れ人。王者となつた。この間。おとせん。あくまで。湖水を。魚とあそび。山長く。れ。歎く。そくそく。天の隕う。あくまで。只見うして。おひと。おとせ。字と。学び。教と。振る。人。熟と。も。拂と。おとせ。うち。天せらゆと。敵も。おまえ。ハ國の墨。おとせ。わを。あや。た計策との。潤練で。その体解せん。と。傷ひ。

。のう。徳成う。きて。子孫と。餘の財と。敵へ。名成
あり。と。そつ然ひ。顧よ。名と。きつとも。かく。に。公
卿。ある。や。耳。文字。よ。まの。繋。が。れて。ま。の。徳成
彦。んじ。ハ。ま。の。清潔と。唱へ。角と。揮く。棄てん。
賢。一。ちよ。商人。が。う。も。ま。の。ハ。喫。か。ト。食
七。の。た。う。れ。嚴。う。り。ち。よ。塵。と。い。臭。蟲。の。湯。へ。不潔と
除。き。め。う。言。ば。嚴。う。り。か。く。清。す。れ。の。い。う。言。を。そ
魚。味。食。醜。の人。よ。み。集。べ。た。や。か。今。秋。は。晴。と
た。日。與。じ。て。窮。体。を。み。そ。も。が。て。を。終。は。富。貴。
道。乃。ま。つ。だ。う。已。ぐ。つ。の。よ。お。り。正。義。と。づ。ま。だ。を。終。
ち。に。ゑ。う。同。す。比。竹。が。種。づ。ハ。祥。よ。お。を。終。

今あとわきを終へ。まことに僕の徳と爲り。先に業の大業を
あゆんで、紙巻や。紙巻や。紙巻や。紙巻や。紙巻や。紙巻や。
ゆゑかれよ。むし。乃世よ。高きもの。十ヶ八ツ。まぐも
おほき。食破強烈の人多。ある。ひは。縁よ。他。うそ。
兄弟一属と。ち。先祖より。久く。き。うそ。め。英しきと
すう。事。もせだ。どうに。極つる。人のいきひと。うそ。
他。乃。接けた。き。せに。手を。もの。田畠紙。も。價。と。賄く。
てある。が。ちよ。己。が。り。の。よ。うちの。と。ハ。村。も。と。う。ま。れ
ても。じつ。め。り。と。人。れ。の。体。え。だ。被。ある。人の。席。を。讓
り。と。人。と。奴。乃。あ。く。尺。も。く。な。め。齋。き。友。乃。友
署。紙。訪。ひ。本。と。わ。り。し。ん。あ。と。夥。じ。て。あ。わ。す。あ。る
う。と。意。へ。を。つ。數。あ。ま。か。年。を。り。ぬ。又。わ。る。忠。う。か。き

ア紙をく。又。か。孝。廟。ア。テ。え。あ。ア。教。主。紙。ア。ト。モ。紙
ア。紙。技。ア。玄。ア。リ。ア。ア。ニ。キ。ア。シ。ア。モ。一。巻。ア。起。川。
三。伏。ア。キ。ア。モ。一。萬。ア。酒。ア。山。ア。山。ア。山。ア。山。ア。
御。ア。脯。ア。一。根。ア。漏。ア。山。ア。休。ア。ア。人。ハ。内。ア。朋。友
ア。紙。ア。ウ。モ。ア。カ。ア。シ。ア。兄。ア。一。屬。ア。通。ア。塞。ア。す。ア
ち。ア。経。ア。モ。ア。ア。モ。ア。内。ア。内。ア。方。ア。ア。波。ア。く。ア。ア
一。生。ア。經。ア。モ。ア。ア。モ。ア。内。ア。人。ア。化。業。ア。う。ア。内。ア。山。ア。ア
ア。れ。ア。風。ア。起。ア。山。ア。山。ア。山。ア。山。ア。山。ア。山。ア。山。ア。
山。ア。山。ア。山。ア。山。ア。山。ア。山。ア。山。ア。山。ア。山。ア。山。ア。山。ア。
山。ア。山。ア。山。ア。山。ア。山。ア。山。ア。山。ア。山。ア。山。ア。山。ア。山。ア。
山。ア。山。ア。山。ア。山。ア。山。ア。山。ア。山。ア。山。ア。山。ア。山。ア。山。ア。
山。ア。山。ア。山。ア。山。ア。山。ア。山。ア。山。ア。山。ア。山。ア。山。ア。山。ア。

も本世のきのこありや。人をもあよひたどり
と体うんすをも安き乃もハ佛家とのことなり理とつ
して。傷つけぬへは荒唐たりもせん。靈も佛も道にいた
事も珍り。先君を祥のへを珍る。あく。志が向ゆ
ハ往古より湯ドモテトキアリカモ。かの佛は山法師
けだ。寂と樂しきハ生れアリ。僧居によると。此はあ
ゆきを教へせり。あ生はアリ。也死がのれども僧
先君與の心もてに。他人よりもまづゆく拂りし入。い
それ若輩にあり。今は生は安樂ノ命にうます。す。
かのうきととたのみて。他人よりまづひとまひ。やくね程
言はひのじと。あゆき樂むがほもたす。あ生
のうきとまざり。す。ゆきひのうきとまざり。

○西口

佛^{おほき}菩薩ハ慈悲利要と號稱とてぞやつわふ。キド
矣。極のによほづひゆべき。汝は無量^{うきのよ}生れむと
きひれ若^よ。不^ふ數^そ勝^{めい}ハ惡事^ごとひこのを證^あす。若
尼^ま鳩^と鷲^と爲^て佛法^を。矣。後^ととぞだ。證^する。若
と移^つ人^へきの身^に來^るとも。子孫^がかく^は事^め極^とめ
居^し。宗廟^{こそ}或^そ祭^さる。子孫^まれと保^けりとば^くわ^れれ
仰^あめ^き。かの^を若^ひす。も^のかの^を若^ひす。も^のかの^を若^ひす。也^は也^は也^は
直^ききあ^らも^うだ^う。又^や業^{めい}惣^{そう}食^くの人^は富^ふ昌^{じょう}す
り^もか^い壽^じり^もう^だ。又^や修^{しゆ}福^{ふく}よく^もも^うハ^れ。秋^は是^ぜう^まと
り^あく。霽^{せい}時^{とき}せたま^ま秋^は今^い無^む無^む無^むと^も御^ごと^も御^ごと^も
く^も。神^{かみ}よ^めと^も佛^{ぶつ}よ^めだ^れと^も那^な勝^{かつ}乃^のあ^はれ^た人と^も
是^ぜう^まと^も御^ごと^も。ゆ^ふは^ま富^ふ昌^{じょう}人^は天^{てん}の附^{つき}よ^く食^く。地^じ利^り



あすかく。春近づりて安貴とす。され天乃道をあ
計策をもと。きつてれあすあらすも天せまくくまと
ワリを。又卑者食膳れ人ハ全般と多くは父母乃あく
きつて。食べるが故も嘆ちて。嘆へたともうも。ひがて
のち之懲とももをそ。起てありひ附てわすれ神。あくよ
あくまゆ波乃わたりあくわくか。秋々と神よあくを
佛よあくび。只これ那様なり。那様たりのとく人の善惡
と紙。紙に書きふべきの事無キ。若と挂悪と罪を
ある。天さり。神を。佛を。二つをのハ道さ。秋ともう
りかずべたはあくび。只筆を。がほえ傳くゆれやくした
よあくまよまく。され全よ失あれども人とまじめの
美きを。やくをぬて。根と種にものふる氣なれ

ほどと。せり人のふ義とも家事うだ傍あらずん人ハ
若根うとも財いつひよ教さぐ。あすかハ全般用事知
て。全乃徳取をも。からくあれよ。放さ。又身れをも
もよ。人よ志津あうね。世に窮して。むし
人ハ天委氏乃賜をく。うすれ出を。身を。精神と勞
ても。のちれうちよ家事。出ゆ。うす。されを。うそ。身
乃嘗た人ハ。かくもく益あれを。りえ。益うくだり。うそ。
あむゆ。せせ山林。のれ。うそ。一生。休。休。ふ
のもの。もろ。清一。かくも。うそ。ゆくと。富
貴のもの。ハ。術。み。く。跡。ま。の。ハ。く。湊。わ。ふ。貴。の。の。ハ。
厭。乃解。より。解。。且。秋。と。も。う。ハ。人の。生。衰。よ。う。だ。り。く
そ。そ。あ。と。す。す。す。す。す。す。す。す。す。す。す。

まも。ものまわらむことひによ。まもゆちよが。こよ
き。あれむくた方にかより。やよ。とよゆく
と体。とれ。と。用。人のせす。もちてあ。も。春。ふる
や。と。樂。つ。と。と。に。海。も。つ。ひ。よ。歌。を。と。と。い。ま。び
も。り。不。徳。の。み。き。と。の。縁。ハ。う。れ。と。わ。ら。あ。わ。り。
ゑ。子。ハ。福。ず。る。や。う。き。と。え。れ。と。ゆ。ん。人。の。僕。約。と。う。り。
つ。え。衣。窮。と。と。よ。く。勢。や。ん。よ。ひ。の。い。う。家。富。人。被。と
べ。と。私。ハ。佛。家。れ。あ。業。も。あ。と。と。僕。門。乃。天。令。に。も。抱。ち
ど。吳。り。境。よ。あ。と。ぶ。う。と。ひ。と。た。内。い。と。身。よ。家。ト。ぐ。
吳。乃。往。敵。ま。り。妙。う。り。高。き。疑。会。も。今。取。よ。消。ド。決
く。ね。被。よ。押。て。じ。向。今。考。既。乃。威。月。に。海。と。麻。那。五
畿。七。道。開。あ。う。う。よ。仰。れ。も。亡。國。乃。義。士。被。此。よ。隣。

と竊坐。或ひ大國乃^ハに勢と托^ス。世へ変^トすゆひ。と
てあはれ^シ人^ト第^三。民も又^ハ國^ニの兵士也。赤と
弟^ニ易^ス。脣^{ツバ}とあく^シ。士^ムの松^{マツ}も^テ眼^{アラシ}
へう^シ。今れ群^モと^ハ長く^シ新^ハの吸^スもあし。彼^ノ一統
して民^トやを死^スは居^シ。又^ハ彼^ノ令^ス一統^シ。云々。
えん又^ハ人道^ヲ城^ム。其^ノ乞^フ可^シ。只當^シ其^ノ死^ス也。傳^シ
も。信玄^ガ智謀^ハ万^古萬^古的^シ。ばとひよりうきて。一^度
威^タ三^國の震^フ。あり^モ君^將北^ウえ^ハ世^事。嘗^テ
ぞ^シ不^可。毛^乃本^心。言^ハよ。當時^信長^ハ累^シ報^ヒ。大將^シ
を。秋平生^ハ他^ト傳^シ。心^休とあ^リ。け^レ疾^シ。子^孫も^ハ而^ヘ他^トと^シり^ト。諸^侯ハ勇^將なり。信^玄も^ハ信^也。信^玄が^トに對^す。お^まま^まにて^ス處^ス。

某人よすぐされども信玄の智に及ぶ。徳信の勇は亦
計り。あれども富貴とゆく天が下れタ一圓ハレ人よ依モ
任さるかの所厚。一圓も金と頃すにて足也。文まと
一とつすもあはれ秀吉れ志大きも。もと先より天地位
満にもある。柴田と丹羽が富貴はるゝ。羽柴と云
氏と役。一々くらべ。今龍と化して左虚は号す。池中
とすれるすきも。秀吉龍と化すれども坂戸の龍を
坂戸の龍と仰す。公壽もかうよニ榮と云ふと。あれも
をこ後きづん。梓を鷹とりて治す世は往古久しく
と尼。人のちみへれハ僕約されども。ものゝ卑威よ鷹。
されど僕約と卑威乃境すくわだまで勢じきわみこそ。
今度昌乃政久一也。ども。義民和く。戸くよす。

秋あと唱もんうちつむはあり。君が望みはつとへと
八字れ句ば涙。人ぞれあくまよのく
完糞かいつ日果ひめ 百姓ひやくし家いえ
数言良薦りょうせんを寺乃達又と云ふ。夜既よ曙あけ別べつ紙
経きよ。あくひ代あくひだい也。迄生まことに不^可見むか。眼まなこは底そこと。起
てゆくすうふのう。がき消けく忍しのくとすりに立た。た肉にくと
衣きぬもすづれすとあひて。がの句ば數かずだ。百姓ひやくしよ酒さけ
とれ向むか糞くそもあはゆく。あくちよ信紙しんし糞くそも。廻まわす
陽草ようそうの陽ひあるや

岳亭五岳著

百家琦行傳

全部

藤井頤齋先生著
閑隣筆記

全部

五冊

近代の奇人志士四十九人の事実を舉へり就中烈女阿雪が小僧河村瑞軒がよりるに窮面向に佳話す

鬼島如水著
農家業事

全部十冊

大藏永常著
農具便利論

全部

諸國物類稱呼

全部

五冊

方言

全部十冊

大藏永常著
農具便利論

全部

五冊

近田足利その他名符の評論聖武帝傍を重んじて甚ち此序説より漢人我國の事記して安譚多き中韻鏡写納の字こそ名を定む撰ふと傍べ

此書は農事より大紀小笠ある彼國東洋乃バ諸國の農具を圖して歩くその便利を論じその外干燥のため水を抜く揚々器品ホを出一あめそ集め僕名和名と奉げ活書を引て正訛を以てあらゆる器品を備ふる益必用の物とづかま

大坂書林

河内屋源七郎

軍書小説類藏板目録

大坂心齋橋通
北久寶寺町

河内屋源七郎

楠二代軍物語

平賀

五冊

繪本

雪鏡談

春曉齋作

十冊

楠正行戰功圖繪

前後

十冊

繪本

雪鏡談

春曉齋作

十冊

神功三韓退治圖繪

五冊

同

金花談

春曉齋作

十冊

皇后三韓退治圖繪

五冊

同

龜山話

同前

十冊

國史寒錄

上古之事

詳抄

一

卷之二

十冊

小摘公正行父正成卿の遺訓を守り南帝の詩

篇抄

一

卷之三

卷之四

十冊

九洲諸將軍記

十二冊

同月霄鄙物語

真顔作

十冊

復讐言岩見英雄錄初編	七冊	繪本誠忠傳	十冊
同二編	南海玉藻隱士嗣述	同畫	
同三編	小澤東陽主人嗣述 六花亭富雪画	同前	十冊
復讐言岩見英雄錄第四輯	七冊	同合邦辻	十冊
南海玉藻主人	嗣輯	同前	
浪丸一鶯齊歌川芳梅畫	近日鑒賞	同金毘羅神靈記	十冊
新累解脫物語	曲亭馬琴著	同浅草靈驗記	十冊
背語質屋庫	勝川春亭畫	春曉齋作	
同中編	近刻	石田玉峯画	
同後編	五冊	同忠孝美善錄	十冊
祐天土人一代記圖會	六冊	春曉齋寫信画	
禁入死靈解脫物語	二冊	同彦山靈驗記	十冊
朝比奈巡嶋記	自初編至六編各五冊	同前	
同八編	松亭金水嗣述 菖飾鳥齊画	同金毘羅神靈記	十冊
同九編	同前	同前	
同十編	同前	同彦山靈驗記	十冊
繪本忠臣藏	平安速水春曉齋	同前	
同十一編	北齋	同前	
同十二編	同前	同前	
同十三編	同前	同前	
同十四編	同前	同前	
同十五編	同前	同前	
同十六編	同前	同前	
同十七編	同前	同前	
同十八編	同前	同前	
同十九編	同前	同前	
同二十編	同前	同前	
同二十一編	同前	同前	
同二十二編	同前	同前	
同二十三編	同前	同前	
同二十四編	同前	同前	
同二十五編	同前	同前	
同二十六編	同前	同前	
同二十七編	同前	同前	
同二十八編	同前	同前	
同二十九編	同前	同前	
同三十編	同前	同前	
同三十一編	同前	同前	
同三十二編	同前	同前	
同三十三編	同前	同前	
同三十四編	同前	同前	
同三十五編	同前	同前	
同三十六編	同前	同前	
同三十七編	同前	同前	
同三十八編	同前	同前	
同三十九編	同前	同前	
同四十編	同前	同前	
同四十一編	同前	同前	
同四十二編	同前	同前	
同四十三編	同前	同前	
同四十四編	同前	同前	
同四十五編	同前	同前	
同四十六編	同前	同前	
同四十七編	同前	同前	
同四十八編	同前	同前	
同四十九編	同前	同前	
同五十編	同前	同前	
同五十一編	同前	同前	
同五十二編	同前	同前	
同五十三編	同前	同前	
同五十四編	同前	同前	
同五十五編	同前	同前	
同五十六編	同前	同前	
同五十七編	同前	同前	
同五十八編	同前	同前	
同五十九編	同前	同前	
同六十編	同前	同前	
同六十一編	同前	同前	
同六十二編	同前	同前	
同六十三編	同前	同前	
同六十四編	同前	同前	
同六十五編	同前	同前	
同六十六編	同前	同前	
同六十七編	同前	同前	
同六十八編	同前	同前	
同六十九編	同前	同前	
同七十編	同前	同前	
同七十一編	同前	同前	
同七十二編	同前	同前	
同七十三編	同前	同前	
同七十四編	同前	同前	
同七十五編	同前	同前	
同七十六編	同前	同前	
同七十七編	同前	同前	
同七十八編	同前	同前	
同七十九編	同前	同前	
同八十編	同前	同前	
同八十一編	同前	同前	
同八十二編	同前	同前	
同八十三編	同前	同前	
同八十四編	同前	同前	
同八十五編	同前	同前	
同八十六編	同前	同前	
同八十七編	同前	同前	
同八十八編	同前	同前	
同八十九編	同前	同前	
同九十編	同前	同前	
同九十一編	同前	同前	
同九十二編	同前	同前	
同九十三編	同前	同前	
同九十四編	同前	同前	
同九十五編	同前	同前	
同九十六編	同前	同前	
同九十七編	同前	同前	
同九十八編	同前	同前	
同九十九編	同前	同前	
同一百編	同前	同前	
同一百零一編	同前	同前	
同一百零二編	同前	同前	
同一百零三編	同前	同前	
同一百零四編	同前	同前	
同一百零五編	同前	同前	
同一百零六編	同前	同前	
同一百零七編	同前	同前	
同一百零八編	同前	同前	
同一百零九編	同前	同前	
同一百一十編	同前	同前	
同一百一十一編	同前	同前	
同一百一十二編	同前	同前	
同一百一十三編	同前	同前	
同一百一十四編	同前	同前	
同一百一十五編	同前	同前	
同一百一十六編	同前	同前	
同一百一十七編	同前	同前	
同一百一十八編	同前	同前	
同一百一十九編	同前	同前	
同一百二十編	同前	同前	
同一百二十一編	同前	同前	
同一百二十二編	同前	同前	
同一百二十三編	同前	同前	
同一百二十四編	同前	同前	
同一百二十五編	同前	同前	
同一百二十六編	同前	同前	
同一百二十七編	同前	同前	
同一百二十八編	同前	同前	
同一百二十九編	同前	同前	
同一百三十編	同前	同前	
同一百三十一編	同前	同前	
同一百三十二編	同前	同前	
同一百三十三編	同前	同前	
同一百三十四編	同前	同前	
同一百三十五編	同前	同前	
同一百三十六編	同前	同前	
同一百三十七編	同前	同前	
同一百三十八編	同前	同前	
同一百三十九編	同前	同前	
同一百四十編	同前	同前	
同一百四十一編	同前	同前	
同一百四十二編	同前	同前	
同一百四十三編	同前	同前	
同一百四十四編	同前	同前	
同一百四十五編	同前	同前	
同一百四十六編	同前	同前	
同一百四十七編	同前	同前	
同一百四十八編	同前	同前	
同一百四十九編	同前	同前	
同一百五十編	同前	同前	
同一百五十一編	同前	同前	
同一百五十二編	同前	同前	
同一百五十三編	同前	同前	
同一百五十四編	同前	同前	
同一百五十五編	同前	同前	
同一百五十六編	同前	同前	
同一百五十七編	同前	同前	
同一百五十八編	同前	同前	
同一百五十九編	同前	同前	
同一百六十編	同前	同前	
同一百六十一編	同前	同前	
同一百六十二編	同前	同前	
同一百六十三編	同前	同前	
同一百六十四編	同前	同前	
同一百六十五編	同前	同前	
同一百六十六編	同前	同前	
同一百六十七編	同前	同前	
同一百六十八編	同前	同前	
同一百六十九編	同前	同前	
同一百七十編	同前	同前	
同一百七十一編	同前	同前	
同一百七十二編	同前	同前	
同一百七十三編	同前	同前	
同一百七十四編	同前	同前	
同一百七十五編	同前	同前	
同一百七十六編	同前	同前	
同一百七十七編	同前	同前	
同一百七十八編	同前	同前	
同一百七十九編	同前	同前	
同一百八十編	同前	同前	
同一百八十一編	同前	同前	
同一百八十二編	同前	同前	
同一百八十三編	同前	同前	
同一百八十四編	同前	同前	
同一百八十五編	同前	同前	
同一百八十六編	同前	同前	
同一百八十七編	同前	同前	
同一百八十八編	同前	同前	
同一百八十九編	同前	同前	
同一百五十編	同前	同前	
同一百五十一編	同前	同前	
同一百五十二編	同前	同前	
同一百五十三編	同前	同前	
同一百五十四編	同前	同前	
同一百五十五編	同前	同前	
同一百五十六編	同前	同前	
同一百五十七編	同前	同前	
同一百五十八編	同前	同前	
同一百五十九編	同前	同前	
同一百六十編	同前	同前	
同一百六十一編	同前	同前	
同一百六十二編	同前	同前	
同一百六十三編	同前	同前	
同一百六十四編	同前	同前	
同一百六十五編	同前	同前	
同一百六十六編	同前	同前	
同一百六十七編	同前	同前	
同一百六十八編	同前	同前	
同一百六十九編	同前	同前	
同一百七十編	同前	同前	
同一百七十一編	同前	同前	
同一百七十二編	同前	同前	
同一百七十三編	同前	同前	
同一百七十四編	同前	同前	
同一百七十五編	同前	同前	
同一百七十六編	同前	同前	
同一百七十七編	同前	同前	
同一百七十八編	同前	同前	
同一百七十九編	同前	同前	
同一百八十編	同前	同前	
同一百八十一編	同前	同前	
同一百八十二編	同前	同前	
同一百八十三編	同前	同前	
同一百八十四編	同前	同前	
同一百八十五編	同前	同前	
同一百八十六編	同前	同前	
同一百八十七編	同前	同前	
同一百八十八編	同前	同前	</

六冊	繪本那智白糸	蘭山著	六冊	松深秋七種
	情史	曲亭主人述作		阿染人松の近世語を古へ南朝の末の序世の 時、忠に勇士の節義より強盗の主の興に義死する事あり
	石言遺響	同前	五冊	遠江の國小夜の中山うち夜泣石数種と 菊川の里の奇譲えんど哀れむかもしきゆ説之
	月冰奇縁	同前	五冊	同奈古曾の闇
	金花夕映	梅暮里谷峨作	五冊	同平泉實記
	孝子歎物語	北嵩画	五冊	同自來也説話
六冊	繪本夜船譚	速水春曉齋作	五冊	風流俄天狗
		述作絵圖書		同口之碑
		咸和亭鬼武作	十冊	千鶴庵萬龜作
		後編	十冊	尋跡齋雪馬画
		前編	十冊	五冊
				村上杜陵子の撰して南玉本虎角井 定川日鏡三霞田治又治など人乃 仕組されば俄の筋向はかふ若ものいき
				五冊

小春 猪生談	東漁作	五冊
復讐言初瀬物語	金太樓作	六冊
栗杖亭鬼卵著 北明画	七冊	
同 安達ヶ原	石田蓼華画	六冊
再開高臺梅	栗杖亭鬼卵作	六冊
繪本白璧草紙	東里山人作	六冊
見外白寧図	岳亭画	六冊
通俗巫山夢	十返舎一九作	五冊
貧福太平記	春の屋主作	三冊

教訓鄙都言種

前編 全四冊

百家琦行傳

岳亭五岳著 五冊

森羅子の著作にて蕙齋子の画後編ハ玉山子の雨
の雨、黒田水の定書を古の質素と云ふ
紀正盛歎風の秘語、蒲生氏郷、九嵐乃時
範家を放させ、室田老侯水の豪豊福島正則
等と愛せ、是諸本生々に民家の傳承と云ふ書

士農工商と僧俗を論せば、近代の奇人の行狀
感想、怪奇、又驚く事無者云々
四十有九人の事実を載り、龍中列女阿雲が小
傳、河村瑞軒が夏蹟、面白き佳話等
確實なる固う標史の書がふ何らば

雨月物語

上田松成著 五冊

播州佐々木九郎一元作
回り縫縫織栗毛二編追加二冊

桂林漫錄

桂川中良先生著 二冊

美作孝民傳

十冊

好古博識、和漢の雜考、附リシ隨筆云々

三條小鍛冶名鉄由來

昭代著聞集

廿二冊

合戰評判

太平記 片假名 大字

廿二冊

續古戰得失論

太平記

廿二冊

深川
滿壽屋金郎
滿壽屋樂燒鉢
仲町通蛤町

三都

江戸大傳馬町二丁目

丁子屋平兵衛

同 京橋彌左衛門町

大島屋傳右衛門

同 下谷御成道

紙屋徳 八

發行

同 馬喰町二丁目

山崎屋清 七

同 浅草福井町壹丁目

吉野屋仁兵衛

書林

京都三条通御幸町

河内屋源七郎版

大坂心齋橋北久寶寺町

